



預言者を殺す、預言者の血を流す

2019.6.28

預言者を殺す / 血を流す / 迫害する ... → よみがえり Rev 20:4 都を相續
千尋の由. 王とる子. (相續人とる子)

主の恵み
神のみことばの歴史 → 主に成る(途). 主に(土)子.
(るしと奇跡) 主の律法を捨てて預言者を殺す
主の心

(聖書の中の聖書のあらすじ)
470
・ステパノ 7:51-53 6: 偽証: 聖書と律法に逆らう
・ネヘミヤ 9:26-31 エルサレム城壁の再建.

律法を捨てて預言者を殺す
・北イスラエル 724年陥落 25117: - エリヤ vs アハブ 13118:-19:
・南25" エルサレム陥落 2536: - エリヤ 哀歌

↓
・預言者 パテスマニヤ / 主イエス
ハロテ. ハロテヤ
・山上の説教 幸い 5: 10-12 預言者を迫害
・使徒行伝 23: 29-39 義人パテスマニヤの血を流す → 神殿破壊
24:-25:
エルサレム

Rev. 3012 1:2,9 . 6:9 . 20:4 29(21:25-3) どう国の人々を殺す. 相續子
神のみことば: 神のみことばとイエスのあかし (殺. 囚人) (ヨハネが預言者. イエスが預言者)

vs にせ預言者 → 火と硫黄の池
2:20-23 19:20, 20:10, 21:8 (にせ預言者... 偶像崇拜. 偶像. 殺人
テテテテ始. 100% 金34)

預言者を殺す、預言者の血を流す、迫害するという箇所について見てみました。

聖書の中の聖書のあらすじというものを見ていた時に、ステパノの証言の最後に預言者を殺すという話がありました。ネヘミヤ9章の罪の告白、民の誓いの言葉の中にも同じようにその言葉がありました。ネヘミヤ9章エルサレムの城壁が再建された後のことです。「律法を投げ捨てて預言者たちを殺し」ということが5段落目に語られています。このことと同じようなことを指してるようにも見える使徒行伝7章のステパノの証言の最後のところに「心にも耳にも割礼の無いかたくなな者たち」と言って預言者を殺した、律法を捨てたということをステパノが訴えるわけです。それがネヘミヤの箇所に似ているということから、「預言者を迫害する者」と「預言者を殺す者」という共通点がこの聖書のあらすじ、みわざのストーリーを短く言った後の訴える箇所に出てくるということで、「預言者を殺す」というところをまとめてみました。

ヘブル人への手紙の11章、信仰の先祖達という箇所の最後もそうでした。預言者を迫害して殺すというところが、ヘブル人への手紙11章の最後にも「このほか誰について言えばいいのでしょうか。時が足りません。この人たちは信仰によって戦って、さらに優れたよみがえりを得るために拷問、あざげられ、むちで打たれ、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され」とずっと迫害、苦難のストーリーが書かれています。

それで見ると、神様のみわざの歴史、しるしと奇跡、そして恵みの歴史を語った後に主に聞き従う、主に仕えなさいということ。主の律法を捨てて預言者を殺す、これが先祖達がした事とその記録です。主のしもべを殺したということが言われているこのつながりの中で、ステパノ、ネヘミヤの話が今言ったようにありました。

ステパノのところは「偽りの訴えが聖所と律法に逆らっている。聖所を打ち壊してモーセを捨てるのだ。」ということを行う偽りに対して答えるところです。ネヘミヤもエルサレムの再建の話をしています。律法を捨てて預言者を殺すというのは、ステパノ(使徒7:51-53)とネヘミヤ(ネヘ9:26-31)の共通している箇所他に、北イスラエルのサマリヤが陥落する時、これが第2列王記17章に書かれています。そこで預言者たちを殺して、偶像に従って律法を捨てるという話が書かれています。それゆえに裁かれるということ。それを真似してしまった南のユダもエルサレムが陥落する時にかたくなで、リーダーたち皆が聖所を汚して預言者たちを迫害するということが(第2歴代誌36:11-16で)記録されていますけど、この(サマリヤ、エルサレム陥落)箇所は律法を捨てて預言者を殺すということが、都の裁きの最終的な裁かれる理由ということ。です。

北イスラエルのところを考えると、これはエリヤのことを思い出してしまうということ。エリヤの箇所と言っているのは、エリヤとアハブとイゼベル。アハブとイゼベルのことが、第1列王記18章と19章にあります(17と18は間違い)。18章でイゼベルが預言者たちを殺した時に、100人の預言者を救い出したオバデヤ。その後バアルの預言者と戦うエリヤの話があります。主の祭壇を作ろうという話があります。それを聞いたイゼベルは、エリヤを殺そうとするところ、この言い方が2回ありますね「エリヤよ、あなたはここで何をしているのか」と言われてるところ。「主のために非常に熱心でした。イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇を壊し刀を持って、あなたの預言者たちを殺した。ただ私だけが残りました。」ということ。を2度。祭壇を壊して預言者を殺すということが2度書かれています。これがアハブ、イゼベルとエリヤの戦い。その戦いがずっとあって、最後にはサマリヤが捨てられる。エルサレムが陥落するという南のユダの話は、エレミヤの中にずっと書かれています。エレミヤも穴に入れられました。エレミヤ書の中に「預言者」という言葉が80回以上出てくるぐらい「預言者」が強調されています。「何度も何度も送ったのに」ということも何回か言われています。哀歌も書いています。エルサレムが裁かれると泣くということ。この2つの箇所の具体的なサマリヤ陥落の時のエリヤ、エルサレム陥落の時のエレミヤということも、律法を捨てて預言者を殺す、迫害するということが残念ながらよく表れている箇所だと思います。

福音書の時代になった時に、まず最初に出てくるのが預言者バプテスマのヨハネが現れて福音を語る。神様の教えを語るとヘロデ、ヘロデヤに殺される。アハブ、イゼベルのようなものです。主イエスも教えているとおりです。主イエスは、山上の説教(マタイ5章)の中で8回「幸いな者よ」「幸いな者よ」と言っている。最後は「義のために迫害されている者」でそれが強調されます。迫害され偽証によって攻撃されるものは幸いです。あなたがたの前に来た預言者たちも、同じように迫害されたというように山上の説教で言います。義のために迫害されている預言者ということ。マタイ23章終わりのほうで、今度は「災いあれ」という感じです。偽善の律法学者パリサイ人というこの災いも8回ではなくて7回繰り返されますけれど、その偽善の律法学者パリサイ人たちに話してる最後が、預言者を殺したということです。義人アベルの血からこのかたということですね。義人アベルの血ですから、義のために迫害されたアベルというのが具体的に直接言われているような感じですね。

「バラキヤの子ザカリヤの血、地上に流された義人たちの血の報い」という言い方を
して義のために迫害された預言者たち。エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、
つかわされた人達を石で打ち殺す者というこの「災いなるかな」と災いあれ。この23
章の次、この次に24章、25章で神殿の裁きについて話すことになります。神殿の裁き
と預言者を殺すというのがセット出てきているということです。

それでマタイの21章に少し戻りますけど、ぶどう園の農夫がしもべを送った時に、袋
叩きにして殺したという例え話がありますよね。その例えのぶどう園の主人としもべ、
そして相続人を殺すという話はどこから始まるかということ、ヨハネが預言者だと
思っているのではという話です。このぶどう園の農夫の話をした後に、最後に捕えようと
したけれど、イエスを預言者だと群衆が思っているからだと。預言者を遣わしたのに殺
すという話を、ぶどう園の農夫のところでもしているということです。

そのエルサレムの裁きがいよいよ来ますということが黙示録にあるわけです。黙示録
は神のしもべヨハネがパトモスの島にいたということで、これは島流しにあったわけだ
ですね。島流しにあつてその中で書いてるのですけれど「神の言葉とイエスのあかし(1:2)、
神の言葉とイエスのあかし(1:9)、神の言葉とイエスのあかしの為に殺された人(6:9)、イ
エスのあかしと神の言葉を伝えたために殺された(20:4)」ということが、黙示録の中で
預言者が殺されているということは神の言葉を嫌っているということが、はっきりとわ
かるかと思えます。それに対して誰が敵なんだと言うと偽預言者だ、偽預言者だとい
うことが、特に19章、20章、21章の黙示録の終わりのところに「獣と偽預言者、これが
硫黄の燃えている火の池に投げ込まれる(19:20)、悪魔、そして獣も偽預言者も火と硫黄
の池に投げ込まれる(20:10)、全て偽りを言う者は、火と硫黄の燃えている池に投げ込
まれる(21:8)。」第2の死の話をするときに、この偽預言者ということが19、20、21
章で言われます。

黙示録20章の千年王国のところは、迫害されて殺された神の言葉と、イエスの証の為
に殺された預言者の霊が御座にあつて、生き返って千年の間支配するということですか
ら、よみがえる。預言者を殺しますけれど、預言者はよみがえります。よみがえるとい
うことは、相続人として一緒に支配するということです。相続する。よみがえるとい
うことは、相続人になるということ。相続するものは都なんですね。都を相続するとい
うことになりますので、偽預言者、偶像礼拝、姦淫、殺人する者というものと同じ人た
ちですね。

テアテラの教会に宛てた手紙にはイゼベルが出てきます(黙示録2:20)。女預言者と自
称して神のしもべたちを惑わせ、不品行をさせ、偶像にささげたものを食べさせてい
るという、このイゼベルと言われるものが、テアテラの教会に宛てた手紙の中に書いてあ
る。アハブ、イゼベルを直接思い出すようなものです。このイゼベルの時に偶像礼拝す
る預言者はたくさんいました。450人、400人という預言者たちがいましたけれど、そ
の預言者たちと戦っている神様の預言者という話をする、そうだとモーセもパロの預言
者と戦いました。預言をしたダニエルは穴に入れられました。獅子の口から救い出され
た。ヨセフも夢を見て穴に入れられる。パウロも囚人となっている。パウロはローマで
囚人となっている。捕らわれている。

「これ以上、何を言いましょう」というヘブルの箇所につけ加えていますよね。付け
加えてしまいましたけど。そのヘブルの11章で言われている者たちは神の都を相続する
という12章の言い方の中に、全うされた義人たちの霊の集まりであるということも言
われています。全うされた義人たちの霊、よみがえった預言者たち神のしもべたちの集
い、これが都であるということがそういう言い方でも分かるかと思えます。

相続人というのはよみがえって死に対して勝利を収めた者。その人たちの相続分は都、神様と共に住むこと、御霊が与えられているということですので、私たちは神様の神殿であるということも言われている通りです。預言者を殺す、血を流す迫害する者に対して戦うのが、この信仰の戦いだと言われてるところですので、全体のあらすじを要約するときの訴える箇所に、「律法を捨てて、預言者を殺す」ということが言われているのは妥当なところなんだと思います。預言者は殺されても必ず復活する。イエスが復活したようにということが私たちの望みです。